

2005.10.13. kaimon00.htm by Mutsu Nakanishi



山川町より

西大山で

JR 西大山駅より

開聞町川尻浜より

どこから見てもその均整の取れた三角の姿を見せる開聞岳

2005.10.13.

11月13日 薩摩半島南端の「薩摩富士 開聞岳」に登ってきました。

高さは924mと低いのですが、薩摩半島の先端にあって、海から真っ直ぐに立ち上がり、どこから見ても左右均整の取れた秀麗な姿を示す円錐形の山。

「高さこそ劣れ、これほど完璧な円錐形もなければ

全身を海中に乗り出した、卓越な構造もあるまい。

名山としてあげるのに私は躊躇しない」

と「日本百名山」の深田久弥が驚嘆した山で 一度は登りたかった山憧れの山でした。

今春 菜の花が咲く頃が一番美しいと言われ、今年の春も計画したのですが、宿が取れず断念。

今の時期10月はシーズンオフで登山客も少なく 静かな山を楽しめました。

前日泊まった山裾の開聞町 川尻浜からは開聞岳の素晴らしい夕焼けが見られ、翌日登った頂上からは360度の素晴らしい展望が楽しめました。かえって シーズンオフでよかったと思いました。

頂上で出会った「100名山」踏破を目指す人も言っていたのですが、高さ924m 大した事ないと思っていたのですが、海拔32mの麓から樹林帯の中、正味の山登り。シーズンで人の多い季節だったら堪えると思います。

山麓の開聞ふれあい公園の草スキー場を抜けたところが登山口。

開聞岳は姿が示すとおり、太古より噴火を繰り返した火山で、溶岩と火山礫 火山灰が積み重なった成層火山とその上 頂上に溶岩ドームを戴く二重式の火山で昔は噴煙をあげ 噴火を繰り返したが、今は火口がなく静かな山である。

登山口のある開聞ふれあい公園から見上げると樹木に覆われた均整の取れた山体の上にポツコリ傾斜が急になった岩が頂上部を形成しているのが見える。



開聞岳登山口 ふれあい公園より

2005.10.13.

昨日も頂上に雲が巻きついていましたが、快晴の空に時折湧き上った雲が風に吹き飛ばされている。相当風が強いのがわかる。ここから 開聞岳山腹の樹林帯の中を渦巻く状にグルリと一周巻いて登りきると頂上。

3.5km 約 2.5 時間のひたすらの登りである。

しかし、上り下りがなく、よく整備された樹林帯の道が上へ上へとついていて足への負担はさほど感じない。



開聞岳登山口 2合目

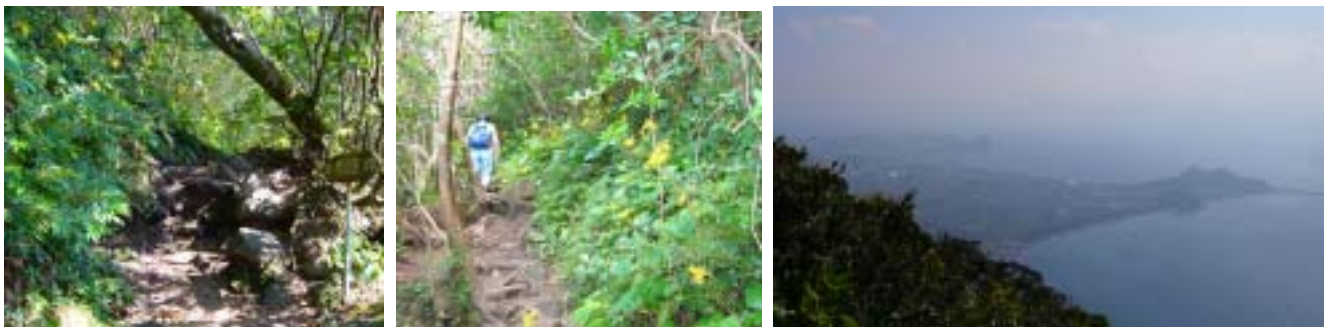


開聞岳 登山 map



開聞岳登山道 灰分や石ころに混じっての細かい礫・赤土がこの山が火山であることを示してくれる

火山灰地に小さな石ころが混じる道から大きな石がゴロゴロの道に変わり、心地良い風が吹いてくると7合目。樹林帯の中を抜け 木々の間から長崎鼻から山川町から海を越えて大隈半島の山々まで 薩摩半島南東部の海岸がちらちら見える。眼下には東シナ海がそのまま光っており、この山が東シナ海から 立ち上がっているのが良くわかる。また 樹林帯の中に入ると 風がなくなる。登山道が山を巻いていることが良くわかる。このあたりには ツワブキが登山道の脇に咲いて素晴らしい。



7合目周辺登山道 ツワブキの花が咲き 眼下に長崎鼻海岸が見える 2005.10.13.

少し行くと大きな岩が積み重なった仙人洞。溶岩ドームの下部あたりか、岩が大きくなって 岩の間に足を突っ込まないよう 大きな岩を伝ってゆくようになる。どうやら 溶岩ドームの下のあたりに差し掛かったようだ。

不意に薩摩半島の北西部 枕崎へのまっすぐな海岸や半島中央部 池田湖がパッチワークのような田園地帯と共に眼に飛び込んでくる。 上り始めた山麓ふれあい公園も真下である。クルツと一周である。常に右手が山腹で上り下りの起伏もなくひたすら登って・・・・・・。衛星写真や地図で見た円錐の開聞岳を実感。 また 初めて眼下の町々が見えて 山の高も実感される。岩肌にススキの穂が揺れ、眼下に薩摩半島のダイパノラマである。

灌木の中急なゴロゴロ岩の登りなのでゆっくり休んでいるわけに行かない。



薩摩半島西部から中央部 池田湖にかけて 2005.10.13.



開聞岳 8合目周辺 岩の頂上部ドームへの登り 2005.10.13.

綱が張られた垂直な岩に梯子がかかっている。この梯子を登って 灌木の中 さらにゴロゴロ岩を伝ってゆくと空も見えるようになり、灌木の間から見上げるような大きな岩になり、それらの横を登りきると不意にごつごつ岩の塊である頂上。約2.5時間の心地良い登山。今までの無風がうそのように風が強い。

風に飛ばされぬよう岩にへばりつきながら一番高い岩の上にへばりつく。素晴らしい360度の景色 眼下に薩摩半島が広がっていた。

頂上には私たち含めて3組のみ 360度のパノラマ楽しむ。



開聞岳頂上 2005.10.13.



薩摩半島の展望 開聞岳頂上より 2005.10.13.

隣にいた山慣れた風貌の人に「もう百のうち幾つになりましたか。。。」と声をかけると「あと7つ 明日から屋久島 宮之浦岳に行く」と名古屋の人。昨日泊まった開聞荘でも「次はそのまま屋久島へ行く」と聞きましたが、本当に百名山踏破を試みている人が多い。

30分ほど頂上において、もと来た道を引き返す。下りのヒザが心配でしたがトラブルなし。ヒザに巻いたサポータの有効性またまた 実感です。



頂上より南西側は山体で海が見えず

靴を脱いで 大の字に山麓ふれあい公園の草地に寝転んで 雲の巻きだした頂上を眺める。登山道は山腹の森の中で全く見えないのですが、山腹を斜めにループしてドームの下に出るルートを描きました。

公園の管理棟へソフトクリーム買いに立ち寄ると「開聞岳登山証明書」のカードを作ってくれました。



ふれあい公園周辺から 開聞岳頂上を見る 2005.1013.

海から立ち上がる開聞岳・開聞岳の夕日も見たし、山頂へも登ったし あとはガイドブックでよく見る「JR 枕崎線 西大山駅からの開聞岳」。

これも帰る道に立ち寄って、色々な姿の開聞岳を見ることが出来ました。

開聞岳のあの均整の取れたどこから見ても三角の秀麗な山 多くの人たちが言うように「登るだけの山ではおいしい山」 富士山がそうであるように眺める素晴らしい山でもありました。

僕にとっては 前日 薩摩半島の中ほどにある知覧町に残る薩摩独特の石組み製鉄遺跡を見てきたのですが、開聞岳はそんな薩摩を「鉄の国」にした「鉄山」でもありました。

夕日に染まってゆく開聞岳を眺めながら 温泉に入って 焼酎飲んで そして 開聞岳に登って 家内と二人 ゴクラク ゴクラク 南薩摩の旅でした



薩摩半島の中部 西大山駅より開聞岳を望む 2005.10.13

2005.10.13. 真っ暗になった九州自動車道を北に走りながら

Mutsu Nakanishi

# 写真アルバム 「薩摩富士 開聞岳ハイク」

2005.10.13. 鹿児島県 開聞町

